

HANS GÁL ・ 作品解説

Toccata [トッカータ]

オルガンのための作品 ・ Opus 29 ・ 1928

楽章	Introduction [序奏] , Theme with four variations [主題と4つの変奏] , Fugue [フーガ]
演奏時間	15 分
出版社	Simrock (1928), 現在 : Boosey & Hawkes
入手方法	取扱先 : Boosey&Hawkes: 刊行中 (M221115294)
初演	Leipzig, 1928年9月 (Günther Ramin)
その他の演奏	Günther Ramin, Leipzig, 1928年10月; Mühlheim, 1928年11月, Hamburg, 1930年11月 Walter Drwenski, Berlin Radio, 1929年1月 Hans Nürnberger, Hannover, 1929年9月, 1930年2月, 1931年10月 Hermann Dettmer, Hannover, 1929年9月, 1930年1月 Hans Bachem, Köln, 1938年10月 Utz, Wiesbaden, 1948年4月 Käte von Tricht, Bremen, 1965年6月; Stuttgart Radio, 1957年3月, 1964年2月; Graz, 1960年7月 Käte von Tricht, Frankfurt, 1962年2月; Edinburgh, 1969年6月; Ulm, 1979年9月 Roman Summereder, Perchtoldsdorf, 1990年10月 Christian Wilson, Southwark, 2010年2月

作品について

1945年にエディンバラ大学の教職に就いたオーストリアの作曲家Hans Gálが書いた、唯一のオルガン独奏曲である。1928年に作曲され、当初はBerlinのSimrockから出版された。Gálは作品を三つの大きな部分に構成した。最初のAllegroでは、左手の華麗な16分音符の音型の上に、上声部が4分音符の旋律を置く。この素材がさらに展開された後、短いAndanteへ移る。最後は精巧なフーガで、lento tranquilloとゆっくり始まり、速度と強度を増して激しい結末へ至る。この部分の中ほどで、Gálはフーガ主題とAndanteの主題を組み合わせている。めったに演奏されないこの作品がレパートリーに定着するかどうかは、まだ分からない。しかし、この版による再出版は、少なくとも、作品にふさわしい演奏機会が増えるという希望を与える。」 [Dr. Charlotte Kroeker : Resources for the Parish Organist [教区教会のオルガニストのための資料]、

www.nd.edu/~icl/music/organ-resource.shtml]

印刷楽譜

録音

Hans Gal Orgelwerke [Hans Gal : オルガン作品集]

Hans Gál (1890-1987): Orgelwerke/Organ Works [オルガン作品集]

Concertino for organ [オルガン・コンチェルティーノ] (Op.55), Toccata [トッカータ] (Op.29), 2 Religious songs [2つの宗教的な歌] (Op.21), Prelude & Fugue [前奏曲とフーガ], Phantasia Arioso & Capriccioso [幻想曲、アリオーソとカプリッチョーソ]

István Mátyás (オルガン), Adrineh Simonian (ソプラノ), David Pennetzdorfer (チェロ), Orchester Wiener Akademie/Martin Haselböck.

NCA 60162 2007

www.membran.net

[この作品をウェブサイトで見ると](#)